

「得心」 心の満足を得る

横田閑雲（本名：恭三）

この作品は、令和元年10月に制作した隷書の小品である。後漢時代の典型的な隷書、いわゆる漢隷の書風とは異なる。前漢時代の簡牘に書かれた字体、例えば、山東省臨沂の銀雀山前漢墓で出土した〈銀雀山漢簡〉や湖北省江陵の張家山前漢墓で出土した〈張家山漢簡〉などに見られる字体をベースに、現代性を加味して創作した。

「得」「心」それぞれの左右への払い出しを強調し、とくに「心」は強く張りのある線で余白に響かせようと試みた。同時に、文字の持つ意味を考慮して、ゆったりとした伸びやかな作風に仕上げることを狙った。

使用筆：宿浄細光鋒（小号）「天地玄黄」（蘇州湖筆製）

使用墨：「抱雲」（呉竹精昇堂製）

使用紙：紅星牌 綿料単宣

